



この写真も最近、偶然により見つけた写真です。大好きな写真なので、いつも机の引き出しの中に入れて手元に置いてありました。アゼルバイジャンにてコーカサスにて出会った風景に魂魅せられました。風が吹くと銀色に輝く木の葉を見ると、魂震え、恋しさを感じます。生まれた言葉は「恋し君の香りを追いかけ」です。「恋し君の香りを追いかけ、川の畔を歩く。。。」アゼルバイジャンでの「高句麗伝説」にて詠ませて戴いた詩です。魂震えてならない光景をたくさんの人と分かち合えれば幸せと感じ、詩によって表現したくなります。何故アゼルバイジャンに導かれたかを考えても答えを見出せずにいましたが、この地で歴史を尋ねた時、「バイカル湖発祥の騎馬民族」とのお答えが返ってきた時には飛び上がるほどに驚きました。先生に出会う前は、高句麗のルーツはバイカル湖発祥の騎馬民族と考え、バイカル湖に行くことを望んでいました。先生に出会い、フェニキアのルーツも見出し、行方を楽しみにしていました。2010年はグルジア、アゼルバイジャンにて「高句麗伝説」を開催致しました。グルジアは白人のルーツと聞き、フェニキアに通じるとのお話に驚きました。そしてアゼルバイジャンはバイカル湖発祥の騎馬民族と聞き、驚きました。私にとっては2つのルーツまで行き着き、これで歴史の巻物を紐解く人生は終わると感じました。まさしくこの年をもって魂の出会いにより導かれ、「高句麗伝説」を開催することは一区切りがつかしました。翌年は日本に大地震が起きましたので、海外へ行っている場合ではないと判断し、東日本大震災チャリティーコンサートを開催しながら東北の復興への道作りに専念しました。さらに翌年2012年にはインドに導かれ、ニューデリーにて「高句麗伝説」を開催しましたがインドの方とはグルジアの方のご紹介で出会いました。



コーカサスにて吹く風の心地よいこと、過ごすひと時の幸せな瞬間瞬間は恋し君の香りと共にいつも内にあり続けます。先生と息子さんの克哲君と一緒に写る写真を見ると、涙が溢れます。人間の姿、人間の真の関係、温もりを感じるのです。この温もり、幸せが永遠でありますようにと心より祈らずにはいられません。生きていてもしょうがないと聞こえる空間に生きる時、体も冷え切ります。その重荷を受け苦痛を感じていた時、この写真を見つけ、一遍に体も心も温まりました。ここが人間が生きる世界であり、人間の真の姿と生命で感じ、涙こみ上げたのです。世界中にこの温もりが広がりますようにと切に望みます。風が吹くと銀色に輝く木々のゆらぎを見ていると山の向こうに待っている人、魂がいるとのメッセージが聞こえ、まだ見ぬ山の向こうを恋しく想います。山の向こうは、ロシアであることを最近確認しました。高句麗滅亡後に

別れた同胞が亡命したロシアの地には出会いを待つ魂がたくさんいることを恋し香りが伝えていきます。ロシアへの道を作り始めた昨年からの活動でしたが、今年はコロナ禍にあり一時中断していますが、間も無く再開したい気持ちが湧いてくる今日この頃です。来年のモスクワコンサートに向かい備え始めます。

今後は一気に平和な世界を実現したく、唯一の解決の場であり未来を創造する先生のコンサートをたくさん開催させて戴く予定です。コンサート開催こそが真の平和な世界を創ります。開催主旨をご理解頂き、開催に向け、動員の働きかけを共にして頂ければ何よりありがたい気持ちでご協力をお願いを申し上げます。明日となりました府中でのコンサート、そして15日の盛岡でのコンサートに向かい、お一人でも多くの方にお声掛け頂けますようお願い申し上げます。



盛岡は銀河鉄道まで登場してくれますロマンあふれる地です。高句麗の地があります北緯40度の地であります。偶然にも世界中の北緯40度の地に導かれる人生であり歩みでした。先生が盛岡にて表現して下さる音は北緯40度を同時に巡り、世界を一つにしていくと見えます。皆様と共に経験できますことを願います。是非ご参加頂けますことを心よりお待ちしております。



高麗恵子